

しゃかいふくしほうじんむさし 社会福祉法人六三四

生活リハビリセンター 六三四・雅たより



第18No.4 社会福祉法人 六三四 TEL 042-343-1895 FAX 042-346-0283
本部 〒187-0042 東京都小平市仲町364番地1
生活リハビリセンター六三四 指定生活介護事業所番号 1313401018
生活リハビリセンター雅 指定生活介護事業所番号 1313401026
e-mail musashi@musashi1895.jp HP-URL <http://musashi1895.jp/>

しゃかいふくしほうじんむさし こんご 社会福祉法人六三四の今後

しゃかいふくしほうじんむさし かんじ
社会福祉法人六三四監事

しゃかいふくしほうじんみらいはまさき いちろう
社会福祉法人未来浜崎 一郎

しんねん
新年あけましておめでとうございます。今年も宜しく願い申し上げます。

さくねん かつどう つづ ほうじんしゅんぼう もと しゃかいふくしほうじんむさし せつりつた
昨年は、これまで活動を続けてきたNPO法人春望を基に、社会福祉法人六三四を設立致しま
した。これにより経営基盤も安定し、より地域の環境整備に取り組む体制が整備されたと思っ
ております。長年春望を支えて頂いた皆様に心からお礼を申し上げます。さて、六三四では、地域
で安心して生活していく為には特に住環境の整備と緊急時の対応が重要と考え、現在グループホ
ーム、ショートステイの開設を計画しております。また、日中活動の充実のため生活介護事業も
併せて計画 中 です。社会福祉法人としてその使命に邁進していく所存ですので、今後とも六三四を
暖かく、時に厳しく見守って頂くと共に、お力添え頂ければ幸いです。

ことし ますます ひやく ねが
今年も益々の飛躍を願い・・・

しゃかいふくしほうじんむさしりじ さとう ただあき
社会福祉法人六三四理事 佐藤 忠明

しんねん あ
新年明けましておめでとうございます。

むさし かんけい みなさま おだ あら しんねん むか ぞん
六三四ご関係の皆様には穏やかな新たな新年をお迎えのことと存じます。

へいせい ねん ば だれ かつやく ぜんいんさんか がた しゃかい めぎ
さて平成28年より、あらゆる場で誰もが活躍できる、全員参加型の社会を目指すため「ニッ

いちおくそうかつやく かくぎけつてい はたら かたかいかく こそだ かいご かんきょうせいび
ポン一億総活躍プラン」なるものが閣議決定され、働き方改革や、子育て・介護の環境整備、

とうとう おお みみ みなさま ひじょう こんご き おも
等々のニュースを多く耳にし、皆様も非常に今後のことが気になるころだと思ひます。

わたし へいせい ねん むさし しんたいしょう しゃつうしよくんれんしせつ し ほじょきん うんえい
私は、平成9年より六三四が、身体障がい者通所訓練施設(市の補助金で運営)のころか

かか で き やまぐちしせつちよう ごほうじん ひがん
ら関わる事が出来、山口施設長にバトンタッチしました。その後法人の悲願でもありました

ほうじん しゃかいふくしほうじんしゆとく りようしゃさま ふ じぎょう ちゃくじつ かくだい
NPO法人から社会福祉法人取得へ、また、ご利用者様のニーズを踏まえ事業を着実に拡大し、

けいかく げん お すず しせつちよう むかし めんめん なみなみ
さらなる計画を現に推し進めている施設長はじめ昔からのスタッフの面々には並々ならぬご

どりよく けいふく かぎ また りじ かんじ ひょうぎいん かがた ちからづよ しえん
努力があることと敬服の限りです。又、理事、監事・評議員の方々はもちろん力強いご支援を

いただ ぎょうせいかんけいかくい しないなご しゃかいふくしほうじんとく りかい きょうりよく たまもの
頂いている行政関係各位および市内等、社会福祉法人等のご理解ご協力あつての賜物だと

おも しあわ かん
思いとても幸せなことだと感じております。

ことし へいせい し とし むす ますます むさし ひやく のぞ みなさま
今年(平成)を締めくくる年でもあります。結びに、益々ゆるぎない六三四の飛躍を望み、皆様の

けんこう たこう ところ きねんもう あ しんねん あいさつ いただ
ご健康とご多幸を心より祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

評議員のご挨拶 --- 福祉と医療、地域とエビデンス ---

社会福祉法人六三四評議員

医療法人財団 暁 あきる台企画室長・副院長 井村 健司

医療はサイエンスであり、アートでもあります。福祉もそうでしょう。

私が最初に評議委員会に参加させて頂いたときの驚きは、(理事会では詳細に議論された結果

だとは思量致しますが) 数値等のエビデンスなしに議論が揉まれる対話運びでした。少々危惧を

覚えましたが、これが地域の力なのかと、心から感心し感銘を受け心に刻まれています。皆様、

この法人を良くしようと、本当に真摯に各々のお立場から本音で語られる姿は崇高でした。

とはいえ事業の意思決定というものは、数多の選択肢の中から、与えられた環境の下で最善と考

えられる結果を導き出す過程です。そこに根拠・エビデンスは欠かせません。次善の策だとしても

経営判断は科学です。

単体製品の売れる頻度は低くポアソン分布に従います。ブランドや一連の商品群の売れ方はガ

ンマー分布に従い、1つの製品市場全体の塊は負の二項分布に従うと言われます。マーケティング

の数理モデルで、製品群の規模が大きくなれば購買頻度や規模は大きくなります。

医療や福祉は非営利で配当はできませんが、売上高を高く保ち、一定以上の収益性・利益を上げ

なければ、事業の継続が危ぶまれます。お金は稼ぐべきです。そのために利回りや収益性を計算し

一定の成果を残しましょう。

内外環境を分析、競合状態や自法人の弱み強みを把握し、効果のある計画を立てて実施、具現化

します。福祉における、このアウトカムと価値の具現とは、何でしょうか。結論は日常大切にして

いる価値観と一致するはず。数は力ですし、数も大きくなれば質に変化します。皆様は、何を

積み重ねて行かれますか。ご指導下さいませ。

ねんとう 年頭のごあいさつ

しゃかいふくしほうじん むさし
社会福祉法人 六三四

とうかつしせつちよう やまぐち たける
統括施設長 山口 建

しんねん あ
新年明けましておめでとうございます。

へいそ しゃかいふくしほうじん むさし じぎょううんえい たい かくべつ こうはい たまわ あつ おれいもう あ
平素より、社会福祉法人 六三四の事業運営に対しまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さくねん どうほうじん ほうじん しゃかいふくしほうじん ほうじんいかん きねん とし
昨年は、当法人につきましてはNPO法人より社会福祉法人へ法人移管された記念すべき年となりました。現在、社会福祉法人 六三四では来年度上半期を目標に新たな生活介護事業所(生活リハビリセンター絆)・短期入所事業所(お結び)の創設に全霊を注ぎ取り組んでおります。福祉

じょうせい こうれいぶんや へいせい ねん ちいきほうかつ しょう ぶんや へいせい ねんどまつ
情勢では、高齢分野で平成30年より地域包括ケアシステム、障がい分野では平成32年度末までに

ちいきせいかつしえんきよてん せっち ひつす へいせい ねん がつ しんりょうほうしゅう かいごほうしゅう
地域生活支援拠点の設置が必須であります。平成31年10月には、診療報酬(+0.41%)・介護報酬

しょうがいふくし どうじほうしゅうかいてい よてい こんご せいど がくしゅう
(+0.39%)・障害福祉サービス(+0.44%)の同時報酬改定が予定されており、今後も制度の学習

ふく ぐたいてき たが せいど りかい いりょうぶんや こうれいぶんや しょう ぶんや きょうどう こと なに
なども含め具体的に互いの制度を理解して、医療分野・高齢分野・障がい分野が協働する事が何よ

せいどかいかく なか ひつようふかけつ たいせつ かん
りも制度改革の中では必要不可欠であり大切なことだと感じております。

ちいきせいかつじょう あら い あら いぼしよ いぎ ふつう せいかつ きほんしん
これまで、地域生活上の新たな生きがい、新たな居場所また意義のある普通の生活を基本指針に

かか じぎょううんえい てんかい ちいきみちやくがたしせつ じつげん む
掲げて事業運営の展開してまいりましたが、さらなる地域密着型施設としてニーズの実現に向けて

まいしん しょぞん ほんねん さら いぎ ちいきふくし みなさま つく あ
邁進する所存でございます。本年も、更なる意義のある地域福祉を皆様とともに作り上げていけれ

かんが ねが
ばと考えておりますので、よろしく願いいたします。

平成30年度北多摩北部地域高次脳機能障害者支援

ネットワーク協議会市民交流事業

社会福祉法人 六三四

生活リハビリセンター六三四主任 金子大輔

平成31年1月19日、清瀬けやきホールにて開催された北多摩北部地域高次脳機能障害者支

援ネットワーク協議会市民交流事業に生活リハビリセンター六三四の利用者様と私2名

で登壇者として参加いたしました。

交流会の内容は、1部の基調講演「リハビリテーション～生活自立にむけて～」をテーマ

に田無病院リハビリテーション科医師鴨下博先生の講演から始まり、2部では、六三四

利用者Mさんと関わりのある関係者で登壇し、テーマ「車いす生活から歩行自立、そして

自分らしく生きる～」について入院時の生活、施設の生活、現在の生活について当事者M

さんから率直なお気持ちをお話ししていただきながら、六三四でのご様子も含めてスライ

ド等で紹介させて頂きました。生活リハビリセンター六三四では高次脳機能障害の支援

には特に力を入れているところでもありテーマである「車いす生活からの歩行自立そし

て自分らしく生きる」という内容についても六三四が大切にして活動している楽しみ、生き

がい、自主性の尊重の3原則に通じるところでもあります。

何よりも利用者Mさんが生活リハビリセンター六三四にて、ご自分で楽しみを見出し通所を通じて他の利用者様や職員との絆を深める事ができたことが安定した六三四への通所ができ生活の中にあるリハビリに繋がっていったと考えております。

初めての市民交流事業の登壇という事で不慣れな面もありましたが、とても貴重な経験になりました。この経験を今後の支援に生かしながら1歩ずつ前進してまいります。

平成31年1月19日、清瀬けやきホールにて開催された北多摩北部

地域高次脳機能障害者支援ネットワーク協議会市民交流事業の写真





こんご よてい 今後の予定

- ・2月11日(月) けんこくきねん かいしょび
建国記念・開所日
- ・2月14日(木) メンバー こんだんかい
メンバー懇談会
- ・3月15日(金) メンバー こんだんかい
メンバー懇談会
- ・3月21日(木) しゅんぶん ひ かいしょび
春分の日・開所日
- まいしゅうきんようび こべつりがくくんれん あきば
(毎週金曜日) 個別理学訓練(秋葉PT)
- まいしゅうげつ すい もくようび こべつりがくくんれん
(毎週月・水・木曜日) 個別理学訓練
- てらだ
(寺田PT)

平成最後の忘年会が終わりました、ボランティアでは初めてのゴスペルグループ DIVA さんに来ていただきました。(左上の写真) また気が付けば新事業所が棟上げされておりました。(右上の写真) (下の写真) は車いす体験で鈴木小学校にいった時のです。この頃季節が過ぎるのが早く感じるようになった今日この頃です。



